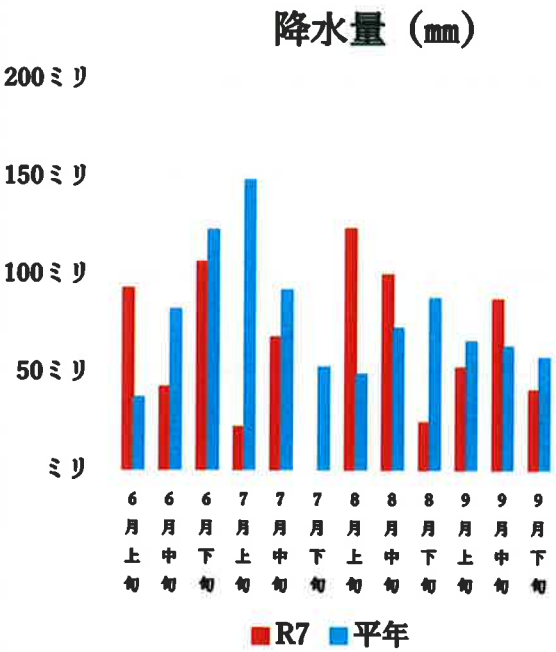
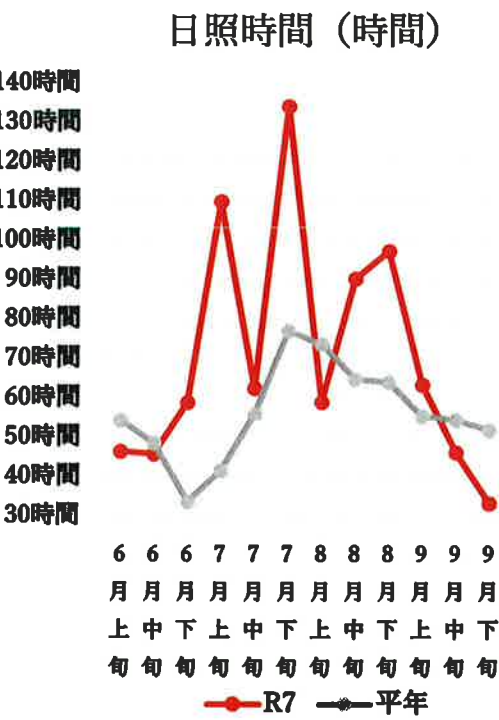
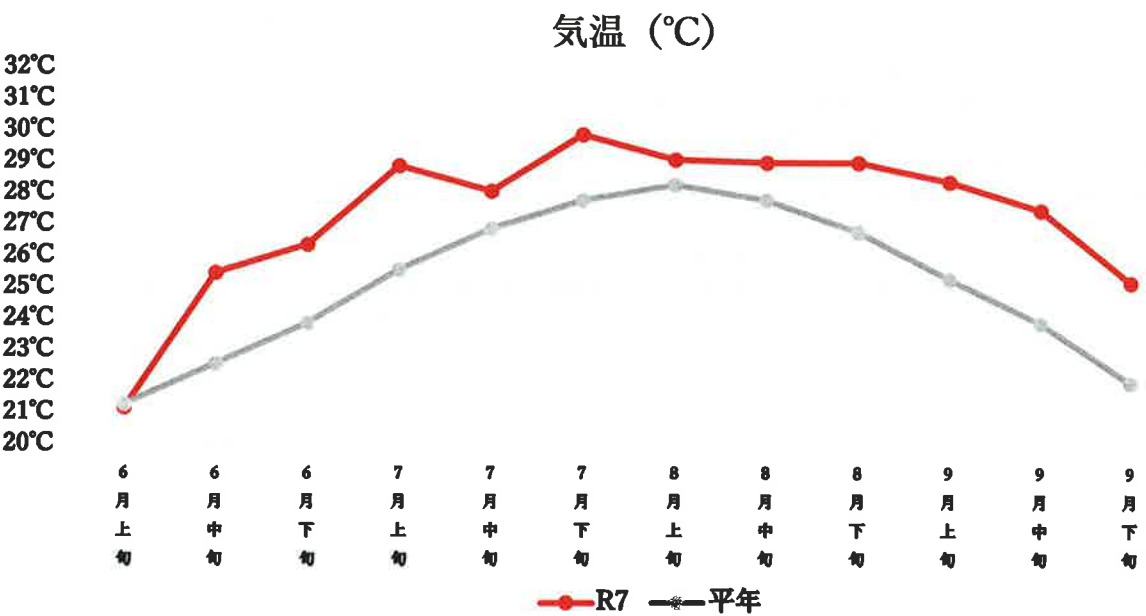


I 令和7年産稲作総括について

1. 生育期における気象条件（前原）



	6月			7月			8月			9月		
	気温(°C)	日照(h)	降水量(mm)	気温(°C)	日照(h)	降水量(mm)	気温(°C)	日照(h)	降水量(mm)	気温(°C)	日照(h)	降水量(mm)
令和7年	24.4	151.4	243.5	29.0	307.0	91.0	29.0	247.1	249.5	27.0	143.2	182.5
平年	22.6	136.8	243.3	26.8	174.9	294.1	27.6	202.9	211.0	23.7	162.0	188.0
平年差	1.8	14.6	0.2	2.2	132.1	-203.1	1.4	44.2	38.5	3.3	-18.8	-5.5

2. 生育概要

令和7年産米は、梅雨明けが6月28日と観測史上最も早く、6月～9月が概して高温傾向で経過したことから、品種・田植え時期により若干の差はあるものの、出穂期は例年より1～3日、成熟期は2～5日程度早くなりました。

生育全般を通して好天に恵まれたことから、例年より穂数・粒数が多く、登熟も概ね順調で、作柄は良好でした。

品質については、高温の影響により全般的に小粒傾向となり、充実不足や背白米等の白未熟粒に加え、カメムシ類による斑点米が見られるなど、やや低下しました。

病害虫については全般的に少発生でしたが、斑点米カメムシ類や紋枯病の発生が例年より多かったようです。

【検査結果】 (%)

品 種 名	等 級		
	1等	2等	3等
夢つくし	0	100	0
元気つくし	66.5	32.2	1.3
ヒノヒカリ	26.9	73.1	0

3. 病害虫の発生状況

(1) トビイロウンカ（秋ウンカ）

梅雨明けが早かったため、飛来回数・量ともに少なく、加えて箱施薬剤の効果もあり、発生は見られませんでした。

(2) セジロウンカ（夏ウンカ）、コブノメイガ

トビイロウンカ同様セジロウンカの発生は見られませんでした。コブノメイガについては、食害葉がわずかに見られた程度でした。

(3) イネカメムシ・斑点米カメムシ類

心配していたイネカメムシは、当JA管内では令和6年に比べやや少発生となりましたが、県下では発生地域が拡大傾向となっており、令和8年産も引き続き警戒が必要です。

斑点米カメムシ類は高温傾向で発生が多くなり、県内では注意報が発令されました。引き続き**畔草管理と合わせた総合的な防除**を心掛けてください。

(4) いもち病

いもち病の発生は例年より少なかったようですが、中干しが強すぎた一部圃場では発生が見られました。

(5) 紋枯病

紋枯病の発生は例年よりやや多かったようです。特に、盆前的大雨や夕立などの影響で8月中旬以降発生が目立ってきました。**発生が多かった圃場は、紋枯病が対象となっている箱施薬剤（スクラム箱粒剤、ブーンハーデス箱粒剤）の使用をお勧めします。**



Ⅱ 令和8年産稲作について（高温が当たり前か？）

異常気象対策＝引き続き基本技術の徹底を！

令和7年は、令和6年同様著しい高温傾向となりました。幸い、台風などの大きな気象災害がなく豊作となりましたが、令和8年産稲作についても、引き続き土づくりやきめ細かな水管理など基本技術を徹底し、異常気象に負けない元気な稲をつくることを心掛けてください。

1 土づくり

① ケイ酸の施用

稲はケイ酸植物といわれ、窒素の10倍も吸収します。ケイ酸を施用すると、過度の蒸散を抑えるとともに、葉が硬く直立するので光合成の効率が良くなります。さらに、倒伏防止やいもち病、その他の病害虫に対しても抵抗性を高めることができます。

ミネラルGはケイ酸や鉄などをバランス良く含んでいますので、土づくりに最適ですが、施用量が多く散布が大変と思われる方は、同様の効果で施用量が30～40 kg/反と省力的な「とれ太郎」の施用をお勧めします。

② 作土深の確保

稲の根が伸びて行き、養分を容易に吸収できるところが作土です。作土が浅い場合は根の育つ範囲が狭くなって十分に伸びることができないため、収量も思うようにあがらず、異常高温などの気象変動に対しても弱くなります。作土が浅くなっている場合は、13 cm以上、できれば15 cm程度を目標に年々少しずつ深くしていきましょう。

当 JA 管内の田は砂壤土が多く、全般的に養分の保持能力が弱いため、作土を深くして根が伸びる範囲を大きくすることで改善できます。

2 水管理

水管理の基本は、適度の中干しと間断灌水です。特に、中干し後は間断灌水を継続することで根の健全化が図れ、田の硬さを維持しながら落水を遅らせることができるので、最後まで米粒が充実していきます。可能であれば、異常高温時は夜間に入水するなど地温を下げてあげると良いでしょう。

なお、早期落水は登熟障害を助長しますので、可能な限り遅くしましょう。



適度の中干し

（小ひび・黒乾）



干し過ぎ

（大ひび・白乾）

3 追肥施用（養分補給で稲の活力を高めましょう！）

令和7年は、基肥一発肥料を施用していた圃場でも葉色が低下し、追肥が必要になった圃場が少なからず見られました。高温が続く時に養分不足になると稲が弱ってしまい、光合成が十分にできなくなり、品質・収量の低下につながります。

追肥施用 出穂前10日頃 化成48号など 10 kg/反

Ⅲ 玄米保管の留意点について

自宅で玄米を保管していただく際、予冷庫に入れる方と納屋等倉庫で保管される方がおられると思います。予冷庫で保管される場合は、玄米に虫等がつきにくい状態で保管されますので、年間通じて安全に保管することができますが、納屋等で保管されている場合は、納屋内の環境によっては、湿気で玄米にカビがついたり、虫がついたりすることもありますので、特に注意して保管してください。

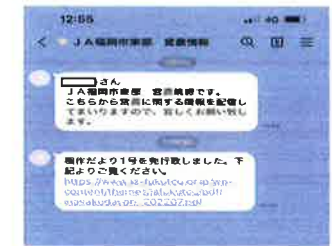
※内容についてのお問い合わせは、JA 福岡市東部 営農生活課 今林・井手口(621-4696)までご連絡ください。

稲作講習会への出席もお待ちしております。

営農情報について

①最新の情報を LINE でお届けいたします。

営農情報（稲作だより等）を「JA 福岡市東部 営農情報」の LINE でも発信しております。下記のQRコードから LINE のご登録をお願いいたします。



②稲作だより等の情報が下記のQRコードよりご覧いただけます。

